

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC Design Award 2013

ー主催団体がキックオフを開催、各地でのデザイナー向け説明会を展開ー

PVC Design Award 事務局

■随想

◇ベナン共和国旅行記（４）ー好きと嫌いー

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇PVC Design Award 2013

ー主催団体がキックオフを開催、各地でのデザイナー向け説明会を展開ー

PVC Design Award 事務局

既に、[「PVC Design Award 2013」](#)のデザイン提案を募集していますが、製品応募も7月1日からスタートしました。前回は上回る応募を期待して、主催・協賛団体の代表24名が一堂に集まり、7月3日に東日本プラスチック工業厚生年金基金会館で、成功を祈念してキックオフの会を開催しました。

はじめに、豊田運営委員長から、各団体の協力に対する感謝と今後に向けた結束を求める挨拶があり、事務局から前回の開催結果の総括と今回の「PVC Design Award 2013」の主旨とデザイナー向け説明会の状況も含めた報告が行われました。また、改めて組織の見直しを行い、新たにデザイナーや学校への相談窓口として、東京、中部、関西の各地区で、ソフトPVCの専門家を選び、その方々にデザイン応募とプロットタイプの試作をサポートするアドバイザーを委託することで合意を得ています。



キックオフ

キックオフの会の後に、関東地区の主催団体会員会社の方々も交えて懇親会を開催し、日本ビニール商業連合会の勝山会長から成功に向けた力強い挨拶があり、参加されたソフトPVCのサプライチェーンの皆さんが地域とビジネスの垣根を越えて、このアワードの成功と広がりへの期待がもてる会となりました。中締めには、東日本プラスチック製品加工協同組合の時田理事長から加工組合を代表して挨拶があり、三三七拍子の拍手で会が締められました。

今回新たに取り組んだ「デザイナー向けの説明会」は、東京で2回、名古屋で1回、大阪で3回、福岡で1回の計7回が開催され、累計179名のデザイナーが参加されました。初めて開催した福岡での説明会は、FUKUOKAデザインリーグの協力を得て、7月4日にアクロス福岡で行いました。協賛頂いている九州ビニール製品工業会からも稗田理事長はじめ会員会社の方々が参加され、地元のデザイナーの方々と初めて交流されました。また、7月5日にグランフロント大阪で開催された最終セミナーは、6つのデザイン団体で構成されている大阪デザイン団体連合とベストデザイン有限責任事業組合の共催を得て行われ、広い分野のデザイナーの方々に参加頂きました。また、メディアの方も取材されて、新たな取り組みとして注目を受けました。



デザイナー向け説明会（大阪）

今回のテーマ「ソフトPVCで日本の力をためす」は、ソフトPVCを長年扱っている塩ビ業界のものづくり力と、素材と製品に機能を吹き込むデザイナーの力がコラボされたときに、これまでに無いものが生まれることを期待して付けたもので、新たなビジネスへつなげて行きたいと願っています。

是非、この取り組みに関心を持って頂き、奮って、デザイン提案と製品応募にご参加下さい。そこに「日本の力」の芽が育っていくことを願っています。

■ 随想

◇ベナン共和国旅行記（4）－好きと嫌い－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

ベナン人は「好き」「嫌い」がはっきりしているようです。単純に、言葉の表現（フランス語の表現）のためなのかもしれませんが。

何人かの人に「どの国が好き？」と尋ねましたが、男女を問わず、皆さん答えが一致していました。

好きな国：日本（お世辞も入っているのかもしれませんが）、中国、インド

好きではない国：アメリカ、ドイツ

嫌いな国：フランス

一番嫌いな国：ソビエト

“好きな国”のインドは製材に関し、積極的に財政・技術投資を行い、雇用が増えていることが評価されているようです。

“好きではない国”のドイツは「細かいことにこだわり過ぎ」。

“嫌いな国”のフランスは「植民地時代からあーだ、こーだと何かにつけて口出しをし、独立したいまでもうるさくてかなわない。おまけに、働かないし（指示をするだけで体を動かさないということらしい）」

“一番嫌いな国”のソビエト。理由を聞いても、どの人も「とても言えない」と教えてくれませんでした。政治的、或いは財政的に、ソビエトはベナンの弱みでも握っているのでしょうか？

味でも「好きと嫌い」がはっきりしています。実は、ベナン人は「辛い」ものが苦手。タイ料理店に行ったのですが、メニューにもちょっとでも「辛い」料理には赤い星マークが付いています。日本人には星1つだと「辛い」とは思えません。星2つだとちょっと「辛いな」。でも、ベナンに人にとって星1つは「すごく辛い」ものらしいです。料理を注文する際、「これは本当に辛くないんだろうなあ」と、どの人も何度も何度も確認をしていました。

タイ人のお店の人が「そんなに辛い物が苦手なら食べに来なきゃいいと思うけど、ベナン人はチャレンジャー。一度はタイ料理を食べてみたいと思うらしいよ」とちょっと呆れ顔で話してくれました。

「好きと嫌い」と言えば、日本から持参した羊羹。ベナン人には全く受けませんでした。

一見すると、名前は分かりませんが、ベナンのイモ料理に似ているため、皆さん、抵抗なく口に入れます。その後が大変。「ひえ〜」と叫び声をあげて、口を押えてどこかに行ってしまう。始めは、『そんなに美味しい(*^_^*)』と見ていたのですが、とんでもなかった。

一見すると、イモ料理のようなのに、味が全く違うため、そのあまりのギャップというか驚きはすごいものがあるらしい。日本人がこんな物を食べるなんて信じられないと、羊羹は完全否定をされてしまいました(>_<)

羊羹、実はドイツ人にも評判が。。。日本を代表する味だと思うのですが。。。

「好きと嫌い」、本人に対して言っているのを何回か見ました。と言っても、フランス語ではなく、部族の言葉だったのですが。翻訳してもらったので、そのニュアンスまで伝わっていないとは思いますが、特に男性は少しでも意見が合わない相手の人に「俺はお前が嫌いだ！」とはっきり言っていました。言われた方も「俺もお前が嫌いだ！」と怒鳴り返しはしますが、その後も普通に話を続けたり、仕事をしたりしています。

傍から見てみると、あの怒鳴り合っていたのは何だったんだろうと不思議でなりません。そうは言っても、たまに本当の口喧嘩になることもあります。その時は、その場にいる一番年上の方が仲裁に入り、解決をします。

ちなみに、「お前が嫌いだ！」とフランス語で言うと、本当に嫌いということで、二度と会わなくなるとか。

でも、ベナンの人って一見すると、すごくまじめなのですが、時折、話の中に冗談を入れてくるので、どこまでが本当の話で、どこが冗談なのか、いまひとつよく分からないところがあります(^_^)

(つづく)

次回は、(5) -Abomey- です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

先日、サイバー攻撃に関する講演会を聞く機会があり行ってきました。いわゆるネットの世界の話ですが、私は、ここ数年ほとんどすべてと言っていいほどネットで買い物をしています。決済も便利なのでほとんどクレジットでしますが、それは危ないと言われてしまいました。今まで被害にあったことはないのですが、使用カードの限度額を低く設定することが必要と言われ、早速そのようにしました。ネットでの買い物、ネット決済の便利さは病み付きですが、私のカード情報がどこまで知られているのか不安になりました。

(ももった)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp